

慶應言語学コロキウム

講演者：齋藤 衛（ノートルダム清心女子大学 特別招聘教授）

司会・コメンテーター：内堀 朝子（東京大学）

コメンテーター：北原 久嗣（慶應義塾大学）

日程：2026 年 8 月 8 日(土)～9 日(日) ※対面開催のみ

時間：14:00(開始)～17:30(終了予定) ※休憩時間、質疑応答・ディスカッションを含む

会場：慶應義塾大学三田キャンパス東館8階ホール

使用言語：日本語

参加申込：研究所ホームページもしくは右のQRコードよりお申込み下さい

* 準備の都合により、事前申込をお願いいたします。

* 事前にお申込みいただかない方の当日参加も可能ですが、会場にて参加者カードへの記入が必要となります。

* 今回のセミナーは生成文法研究の専門的知識が前提となります。



内的併合により形成されるコピーの解釈：スクランブリングを中心として (8月8日～9日)

本発表では、Chomsky (2021, GK) を仮定して、内的併合により形成される項のコピーがどのように解釈を受けるかを考察する。(発表の冒頭で、Chomsky (2024, MC) による不適正移動 (improper movement) の分析に触れ、GK を仮定する理由を示す。) NP 移動、Wh 移動に言及しながら、スクランブリングの全再構築化 (radical reconstruction) 現象、A/A' スクランブリングの分布に分析を加える。提案は、斬新なものではなく、(1) フェイズ内部のコピーは、 θ -link (Chomsky 2021) を通して解釈されなければならない、(2) θ 位置にないフェイズエッジのコピーは、演算子位置においてのみ演算子として解釈される、というものである。分析は、Saito (2016, 2018) におけるラベル付け、Saito (2024) におけるフェイズに関する仮説を前提とするので、これも簡単に紹介する。また、英語 Wh 句に見られる反再構築化についても、Kitahara (2017) に基づく分析を示す。

GK 理論から見た循環的移動除去の課題 (8月9日)

Chomsky (2024, MC) は、A' 移動に代わるものとして、フェイズ主要部によるアクセスを提案している。本発表では、まず、提案に十分な概念的、経験的動機があるかを問う。特に、後者については、不適正移動 (improper movement) を取り上げて、詳細に検討する。次に、この提案の下では、どのような補足的仮説が必要となるかを考える。第一に、循環的移動により説明されてきた現象の可能な分析を検討する。演算子移動は、着点の要請によるものと仮定されており、これを捉えようとした仮説として Chomsky (1995) の Attract がある。フェイズ主要部によるアクセスは、これと類似する性質を持つと思われるが、Attract が内包する問題を継承していないだろうか。第二に、スクランブリングのような Attract によっては分析しえない移動現象もあることが指摘されたが、これはフェイズ主要部によるアクセスによって分析しうるのだろうか。北原 (2026) の試案に言及しながら、この問題についても考える。

共催：科学研究費助成 基盤研究(C) 25K04101 『併合と最小探索に基づく日英語比較研究：統辞構造はどのように生成され解釈されるのか』

[お問い合わせ先]

〒108-8345 港区三田2-15-45 慶應義塾大学言語文化研究所
電話：03-5427-1595（事務室直通） メール：genbu@icl.keio.ac.jp
<http://www.icl.keio.ac.jp>